

東北のグローバル港湾 「仙台塩釜港」



仙台塩釜港について

仙台塩釜港は、仙台港区・塩釜港区・石巻港区・松島港区の4つの港区からなり、2012年（平成24年）10月に当時の国際拠点港湾仙台塩釜港、重要港湾石巻港、地方港湾松島港の3港統合により誕生した国際拠点港湾です。

宮城県の貿易総額のうち、およそ9割が仙台塩釜港（仙台港区）で取引されており、石油タンカーをはじめ、国際コンテナ船や京浜港を経由する国際フィーダーコンテナ船により、100か国以上の国々と結ばれています。また、東北への自動車関連産業の集積が進んでおり、完成自動車等の移出入拠点としても重要な役割を担っています。

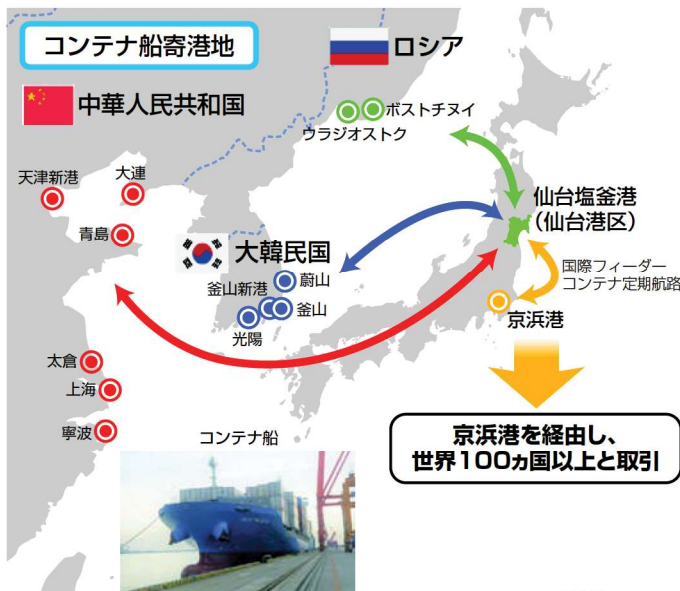


仙台塩釜港（仙台港区）紹介映像▶
動画視聴サイト YouTube



定期航路（令和7年3月1日現在）

仙台塩釜港（仙台港区）には、中国・韓国航路、韓国航路、中国航路、極東ロシア航路の4つの国際コンテナ定期航路のほか、京浜港（東京・横浜）とを結ぶ国際フィーダーコンテナ定期航路が開設されています。また、フェリーやRORO船、自動車運搬船が毎日寄港しており、安定した物流供給を行っています。



自動車運搬船・RORO船寄港地（●）

フェリー寄港地（■）



定期航路の詳細はこちら▶▶▶

仙台国際貿易港整備利用促進協議会HP



仙台塩釜港の貨物動向

仙台塩釜港における2023年（令和5年）の取扱貨物量（速報値）は、3,930万トンとなりました。各港区における主要品目は、仙台港区はフェリー貨物・完成自動車、塩釜港区は石油・セメント、石巻港区は木材チップ・石炭です。

